

CLTの普及に向けた第4次ロードマップ

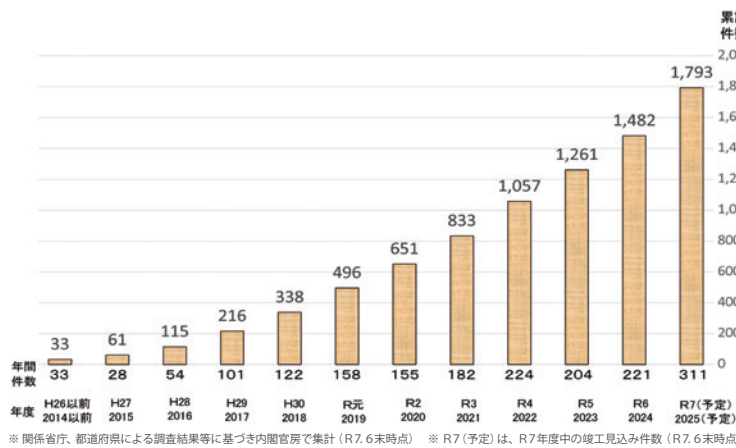
CLT活用促進に関する関係省庁連絡会議は、CLT（Cross Laminated Timber：直交集成板）の更なる利用拡大に向け、令和8年度から12年度までを対象期間とする「CLTの普及に向けた第4次ロードマップ」を取りまとめました。

CLTは、左の図のようにひき板を繊維方向が直交するように積層接着したパネルで、CLTを構造等に用いるとコンクリート等と比べて養生期間を要せず施工が迅速であることに加え、建物重量が軽く基礎工事が簡素化される、断熱性が高い等の利点があり、国産CLTの活用による中高層建築物の木造化が期待されています。

CLTの積極的な活用に向けて、政府では平成28年6月に「CLT活用促進に関する関係省庁連絡会議」を設置し、これまで3次にわたりロードマップを策定し、これに基づき、関係省庁が連携して取組を推進



CLT（直交集成板）



CLTを活用した建築物等の竣工件数の推移

してきました。その結果、CLT建築物は左のグラフが示すように平成28年度では累計115件でしたが、年々竣工件数が増加し、令和7年度には累計1,700件を超えるなど、一定の成果を上げてきました。

一方で、更なる木材需要の創出、林業・木材産業の活性化による地方創生や2050年カーボンニュートラルの実現といった政策課題に対応するためには、国産CLTの更なる利用拡大を進める必要があります。このため、関係省庁連絡会議において、これまでの取組を踏まえつつ、新たな課題に対応した第4次ロードマップが取りまとめられました。

次頁に示している本ロードマップの策定にあたっては、木材供給者から利用者までの幅広い関係団体や有識者からいただいた意見も反映させながら、①CLTの理解度の向上、②CLT等の木材利用の効果の発信、③低コスト化の推進、④CLTの活用範囲の拡大、⑤CLTの設計・施工等ができる担い手の増加、⑥CLTの維持・管理の方法の明確化の6つの柱を中心に、取組の方向性が整理されています。

具体的には、多様なチャンネルを活用した情報発信、先駆性・普及性の高いCLT建築物の整備、標準的な木造化モデル設計や混構造に活用するためのマニュアルの作成、設計者への二元的サポートの推進等を通じ、CLTの魅力や技術的知見の普及を図るとともに、建築物LCCO₂評価や改正SHK制度を活用した環境性能等の「見える化」を推進することとしています。さらに、公共建築物等への積極的な活用

や国産CLTの輸出促進によるまとまった需要の確保、供給ネットワークの構築や標準寸法のCLTパネルの普及等を通じ、CLTが安定的に供給される体制の整備を目指すとともに、他工法とのコスト差によるデメリットの解消を図ることとしています。



写真(左)：CLTを活用した建物 鍵利CLT BLDG. (埼玉県さいたま市)
写真(右)：CLTパネル工法普及モデルと標準寸法のCLTパネル

林野庁としては、本ロードマップで示された目指す姿の実現に向け、今後とも、関係省庁、地方公共団体、関係団体等と連携しながら、CLTの普及・定着に向けた取組を着実に推進していく考えです。

CLTの普及に向けた第4次ロードマップ

CLT活用促進に関する
関係首庁連絡会議
令和8年3月31日決定

取組の方向性	取組事項	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	目指す姿
1. CLTの理解度の向上	(1) CLTに関する情報の発信	①	多様なチャンネルを活用したCLTの魅力発信等の強化				CLTの魅力などが広く理解される。
		①	先駆性・普及性の高い建築物の建築等の推進				
	(2) モデル的なCLT建築物等の整備の促進	②	公共建築物等への活用に向けた環境整備				
		③	新たな用途等の標準的な木造化モデル設計の作成	標準的な木造化モデル設計の実物件への適用			
		④	他構造にCLTを部分利用するためのマニュアル等の整備	マニュアル等の普及			
2. CLT等の木材利用の効果の発信	(1) 環境性能等に見える化等の推進	①	建築物LCCO ₂ 評価を通じた木材を利用した建築物のライフサイクルカーボン等の情報発信等				建築物等への木材利用によるカーボンニュートラルへの貢献等についての理解が定着する。
		②	改正SHK制度を通じた炭素貯蔵効果の発信				
3. 低コスト化の推進	(1) まとまった需要の確保	①	公共建築物等への積極的な活用				年間50万m ³ のCLTが安定的に供給される体制が整備され、建築コスト面でも他工法と比べてコスト差によるデメリットが解消される。
		②	国産CLTの輸出促進				
	(2) 効率的な量産体制の構築	①	需要動向を踏まえた供給ネットワークの構築及び標準寸法のCLTパネルの普及				
		(3) 建築の省施工・低コスト化の推進	①	中高層建築物を含めた接合方法等の開発	接合方法等の普及		
			②	S造やRC造等とのコスト比較や設計ディテール等に関する情報の提供			
4. CLTの活用範囲の拡大	(1) 建築基準・材料規格の合理化・整備	①	中層CLT建築物等に関する基準の合理化・整備				幅広い範囲の建築物、構造物等でCLTの活用が進む。
		②	幅広い層構成等の基準強度の設定等	規格の普及			
	(2) 建築物以外の分野での活用	①	建築物以外での活用の検討・実証・普及				
5. CLTの設計・施工等ができる担い手の増加	(1) 設計者・施工者等の技術等の向上	①	設計者・施工者等に向けた講習会等の推進				CLT建築物の設計・施工等を行うことの出来る者が増加し、必要な設計者・施工者等を円滑に選定できる。
		②	設計者への一元的サポートの推進				
	(2) 設計・施工等のプロセスの合理化	①	一貫構造計算プログラムやBIMを活用した設計・LCCO ₂ 算定・積算・施工等の合理化				
		(3) 担い手情報の提供	①	担い手に関する情報の積極的提供			
6. CLTの維持・管理の方法の明確化	(1) 適切な維持・管理情報の提供	①	CLTを含む木造建築物等における維持・管理のための環境整備				建築主等の中で適切な維持・管理の方法等が的確に理解される。